

出火原因から見る予防対策



H30.3 作成

まず始めに・・・

全国での出火件数（平成28年）は、36,831件でした。その多くは、火気の取扱いの不注意や不始末から発生しています。

出火原因別で見ると、

- 1 位：放 火（3,586件）
 - 2 位：た ば こ（3,483件）
 - 3 位：こ ん ろ（3,136件）
 - 4 位：放火の疑い（2,228件）
 - 5 位：た き 火（2,124件）
- 【平成28年】

となっています。

高松市消防局管内では、平成29年に151件の火災が発生しました。

高松市消防局管内の出火原因としては、

- 1 位：た き 火（43件）
 - 2 位：た ば こ（18件）
 - 3 位：火 入 れ（15件）
 - 4 位：こ ん ろ（ 8件）
 - 5 位：放 火（ 7件）
- 【平成29年】

となっています。

それでは、高松市消防局管内で発生が多い出火原因について、予防対策を交えて見ていきましょう！

1 たき火及び火入れ

たき火をしていた箇所



たき火から燃え広がった状況



枯草へと燃え広がる状況

ごみの野外焼却は原則禁止されています。詳しくは、

高松市役所 環境局 環境指導課

TEL 087 - 839 - 2370

へお問い合わせください。

予防対策

1 農作業などでやむを得ず焼却行為を行う場合は以下の点に注意してください。

①火災とまぎらわしい煙が上がる場合は、消防署へ届出する。

※野外焼却を合法化（許可）するものではありません！

②消火するまでは、その場を離れない。

③消火に必要な水など、消火用具を準備しておく。

④風の強い日や空気が乾燥している日は、焼却を行わない。

⑤付近に燃えやすいものがある場合は、除去する。

2 斜面際では燃やさない。

※火は燃え上がる性質があるからです。

3 一人で焼却を行わない。

2 放火



家の周りに燃えやすいものを置かない



防災物品を使用しましょう

全国での出火原因1位は放火です。高松市消防局管内でも、平成29年には放火の疑いを含めると、1年で7件発生しました。

放火を防ぐためには、放火されにくい環境を作ることが大切です。予防対策を参考にしてみてください。

予防対策

- 1 家の周りに燃えやすいものを置かない。
- 2 車庫や物置などは必ず鍵をかける。
- 3 郵便受けの郵便物などはこまめに取り出す。
- 4 車の窓は閉め、必ず施錠する。
- 5 ごみは決められた日の決められた時間に出す。
- 6 車やバイクのカバーは、防災物品を使用しましょう。
- 7 不審者などの情報は、自治会単位で共有する。

3 たばこ

【灰皿が割れ火災になる実験】

ガラス製灰皿

山積みになった吸い殻



ガラス製の灰皿に吸い殻が山積みになっている状況

約10分後、吸い殻から白煙が立ち上がる状況

散乱した吸い殻



約37分後、ガラス製の灰皿が割れ、吸い殻が散乱した状況

ガラス製の灰皿を置いていた場所



吸い殻を除去すると、板が焦げていた状況

全国での住宅火災による死者（放火自殺者等を除く）を発火源別で見ると、「たばこ」によるものが159人（11.0%）で最多となっています。（平成28年中）

また、「たばこ」による火災の59.0%は不適切な場所への放置によるものでした。

予防対策

- 1 寝たばこは絶対にしない。
※特に飲酒後の喫煙は非常に危険です！！
- 2 吸いかけのまま放置しない。
- 3 吸い殻はためず、こまめに捨てる。（灰皿はいつも綺麗にしておく。）
※左の写真のように火災になる可能性があります。
- 4 灰皿は、水を入れて使用し、消火する。（灰皿は、縁が広いものを選ぶ。）
- 5 吸い殻は、一度水にさらしてから捨てる。
※灰皿にたまった吸い殻を直接ゴミ箱に捨てない！これが原因で火災が多く発生しています！
※しっかりと水にさらすこともポイントです！

4 こ ん ろ

木 材



壁材が木材のため、壁が焼け、燃え上がった状況

タイル



壁材がタイルのため、煤が付着したのみで、燃え広がらなかった状況

全国で「こんろ」による火災の49.7%は消し忘れによるものでした。また、こんろの種類別では、ガスこんろによる火災が2,702件(86.2%)と最も多く、大半を占めています(平成28年中)

さらに、衣服に燃え移る「着衣着火」も増えています。

予 防 対 策

- 1 こんろから離れる時は、火を消す。
- 2 周囲に燃えやすいものを置かない。
- 3 調理場の壁は、燃えにくい素材を採用する。
- 4 できれば、安全装置が付いている器具を採用する。
- 5 換気扇やグリルは、こまめに掃除し、綺麗な状態を保つ。
- 6 ガスホースにひびが入っていないか点検する。
- 7 てんぷら油の過熱に注意する。
※これが原因で、火災になるケースが多いです！
- 8 極力、防災性能を有するエプロンを使用しましょう。
※着衣着火防止のためです。
- 9 必ず住宅用消火器を設置しましょう！！

その他

ストーブ

落下した洗濯物



ストーブの上で干していた洗濯物が落下した状況

他の洗濯物

ストーブ



他の洗濯物に燃え移っている状況

高松市消防局管内では、ストーブが原因による火災が3件発生しています。（平成29年）

また、全国では1,210件の火災が発生しており、全体で見ると出火原因7位となっています。（平成28年）

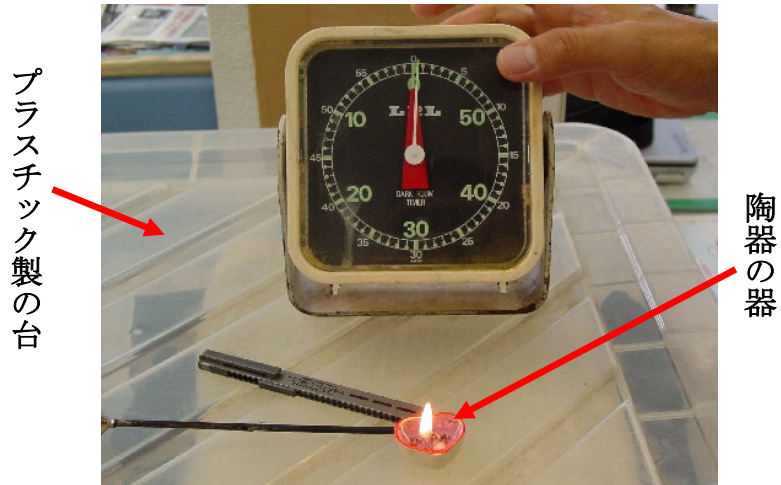
石油ストーブだけでなく、電気ストーブからの火災も増えていますので、御注意ください。

予防対策

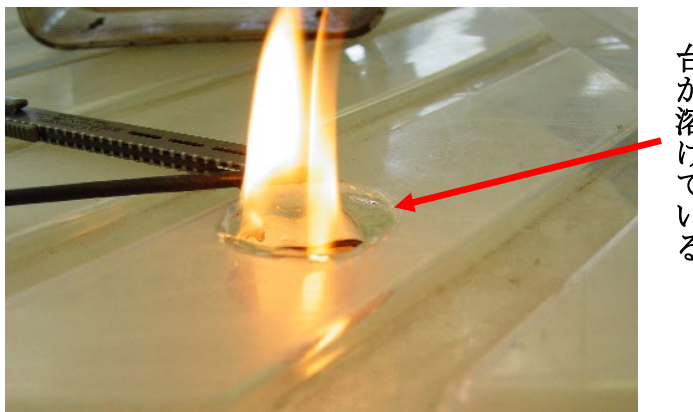
- 1 外出時や寝る時は必ず消す。
- 2 ストーブの上及び周辺には洗濯物を干さない。
- 3 カーテンやベッドの近くで使用しない。
- 4 暖房シーズン前には、必ず点検整備を実施してから使用する。
- 5 シーズン終了時は、灯油をきちんと抜き取る。
- 6 昨シーズンの灯油は使用しない。
※燃料の劣化により火災に至った事例もあります。
- 7 給油カートリッジの蓋は、きちんと締める。
- 8 火を消してから給油する。
- 9 ガソリンを給油しない。
- 10 灯油は、白のポリ容器で保管しない。
※燃料の劣化を防ぐためです。
- 11 スプレー缶を近くに置かない。

ローソク

【ローソク立てからの火災に至る実験】



陶器の器を、台(プラスチック製)の上に置いている状況



約50分後、プラスチックの台に熱が伝わり、溶け始めるとともに、燃え広がる状況

火災原因として、上位ではありませんが、ローソクが原因で火災が発生しています。

また、お盆やお彼岸時期には仏壇でローソクを使用する頻度が増えると思います。特に仏壇で使用するローソクには御注意ください。

予防対策

- 1 仏壇に着火しやすいものを置かない。
※仏壇に飾っていた造花に燃え移り火災に至った事例もあります。
- 2 ローソク立てや線香立ての下には、ガラスや防災性能のある布等を使用する。
※左の写真のように、火災になる可能性があります。
- 3 火をつけたまま、その場を離れない。その場を離れる時は、必ず火を消す。
- 4 ローソクの大きさに合った専用のローソク立てや不燃性容器を使用する。
- 5 水洗いしたローソク立ては、よく拭き取ってから使用する。
※ローソクが燃え尽きる瞬間、芯が音とともにねあがり落下し、火災になる可能性があります。
- 6 着衣着火にも注意する。
※仏壇奥の物を取ろうとして、服の裾にローソクの火が着火した事例も報告されています。

風呂かまど



貫通部遮熱処理未実施

貫通部の遮熱処理未実施のため、屋根板が焼損した状況



薪ボイラー

薪ボイラーが原因で火災となった状況

高松市消防局管内では、風呂かまどが原因による火災が1件発生しています。（平成29年）
使用している方は、十分に注意してください。

予防対策

- 1 薪ボイラーの扉を開けたままの状態、その場を離れない。
- 2 薪ボイラーの扉が壊れたまま使用を続けたことにより、火種が外へこぼれ、周囲にあった落ち葉等に燃え広がり火災となった事例があります。
- 3 ボイラーやかまど付近には、燃えやすいもの等を置かない。
- 4 煙突の貫通部は、正しく断熱処理する。（左上写真）
※煙突の貫通部を遮熱処理していなかったため、屋根材が焼損した事例もあります。
- 5 長期間使用し、破損箇所や亀裂箇所がないか点検する。

